

SAMPLE

特集レポート No. 010

海外における飲食デリバリービジネスの動向

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 飲食デリバリービジネスは店舗型ビジネスと比較した際のその商圈の広さにポテンシャルがあり飲食企業から興味を持たれながらも、自社で配送網を抱えるコストの高さ、オペレーションの煩雑さを背景に展開できる企業は大手チェーンに限られていた
- しかしながら、近年の物流の高度化やモバイルテクノロジーの急速な普及にともない一気に普及期に入った。その成長性の高さから、創業から2年余りでグローバル規模でトッププレイヤーとして展開する企業も誕生しており、ベンチャーキャピタルや投資ファンド等からの投資が相次いでいる注目市場である
- 本レポートでは、急拡大する飲食デリバリービジネスの海外での展開状況と最新の事例を紹介することで、世界で起こりつつある飲食ビジネスの変化を捉える一助としたい

本資料の流れ

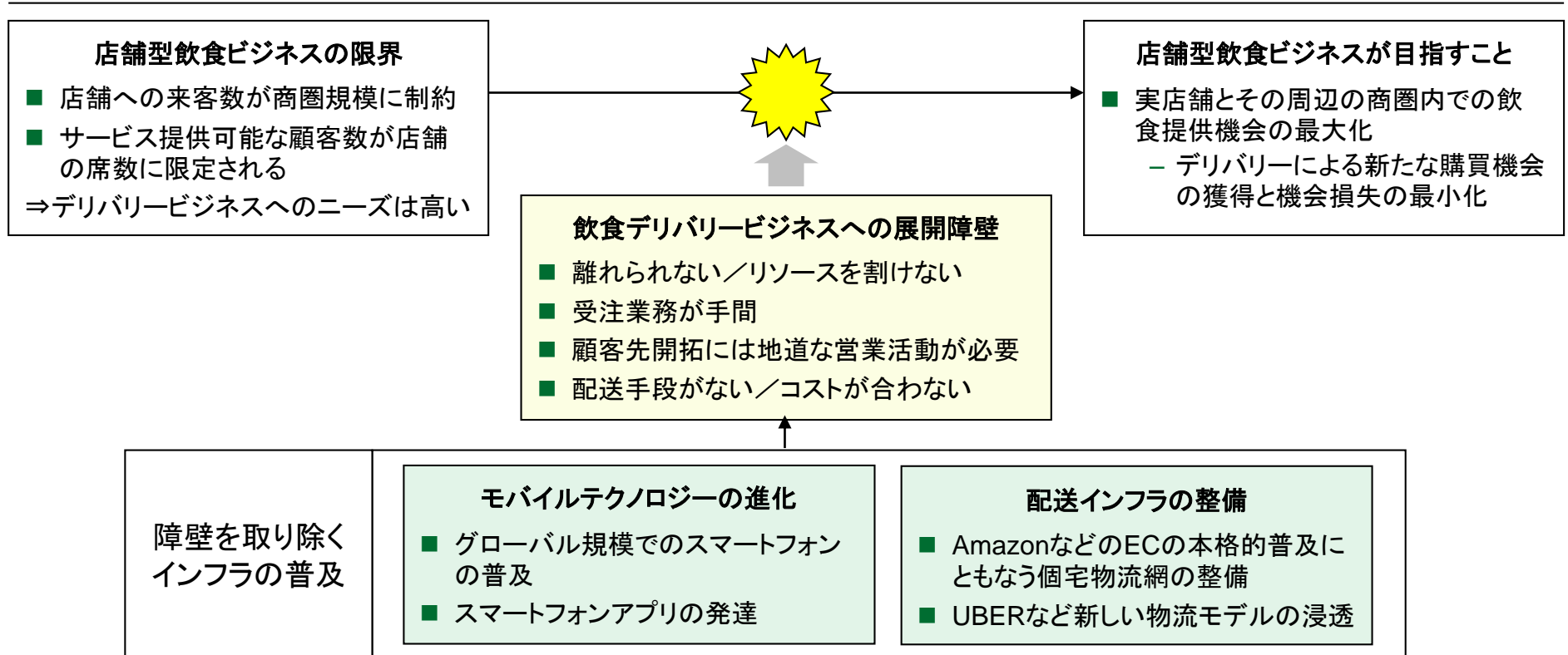


- I. 海外の飲食デリバリービジネスの現状
- II. 海外先進事例の紹介

店舗型飲食ビジネスの限界とデリバリービジネス勃興の背景

- 飲食デリバリー事業への展開ニーズはあったが、参入には一定の障壁があった
- 近年のモバイルテクノロジーの普及や配送インフラの整備にともない一躍成長市場となった

店舗型飲食ビジネスからみた飲食デリバリーへのニーズと障壁



- 飲食デリバリービジネスの勃興
- 米国を中心にベンチャーキャピタルや投資ファンドの投資が相次ぐ

飲食デリバリービジネスの位置づけ

- AT HOME EATING (内食) は利便性向上のビジネス革新が進み、選択肢が多様化してきた
- 以降では、「PREPARED GROCERIES」「MEAL DELIVERIES」「PERSONAL CHEF」の3カテゴリの事例を紹介

AT-HOME EATINGの選択肢

		← 飲食デリバリービジネスの範囲 →				
		GROCERY STORES “スーパーでの買い物”	GROCERY DELIVERY “ネット通販”	1 PREPARED GROCERIES “食材キットの宅配”	2 MEAL DELIVERIES “調理済み食品の宅配”	3 PERSONAL CHEF “シェフの派遣”
提供価値		<ul style="list-style-type: none"> ■ 豊富な食材 ■ 食材を選ぶ楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 豊富な食材 ■ 買い物の省力化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 買い物の省力化 ■ 調理時間の短縮 ■ 調理の簡易化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 買い物の省力化 ■ 調理時間のカット ■ 調理時間のカット ■ プロによる調理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 買い物の省力化 ■ 調理時間のカット ■ 調理時間のカット ■ プロによる調理 ■ シズル感
利便性		★☆☆☆☆	★★★★☆	★★★★☆	★★★★☆	★★★★★
企業		<ul style="list-style-type: none"> ■ Wal-mart ■ TESCO ■ Carrefour ■ Target 	<ul style="list-style-type: none"> ■ freshdirect ■ HUBBUB ■ good eggs ■ ocado 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Blue Apron ■ MUNCHERY ■ Gobble ■ Home Chef ■ Plated ■ Love with Food ■ Graze 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Grubhub ■ DoorDash ■ JUST EAT ■ Foodpanda ■ Amazon Restaurants ■ UBER EATS ■ ezCater ■ Cater2.me 	<ul style="list-style-type: none"> ■ On Demand Chefs ■ La Belle Assiette

赤字・・・以降で紹介

飲食デリバリースタートアップの資金調達の状況

- 飲食デリバリースタートアップはベンチャーキャピタルから注目を浴びており、大型の資金調達が相次いでいる
 - 食材キットの宅配サービスGobble(米)、
2015年10月にTrinity Venturesが主導したシリーズA投資ラウンド*で1,075万ドルの調達に成功
 - 食材キットの宅配サービスBlue Apron(米)、
シリーズD投資ラウンド*を迎え、2015年9月時点の合計で19億3,000万ドルの投資を受けている
 - 調理済み食品の宅配(インターネット出前)サービスGrubHub(米)、
2009年3月にシリーズB投資ラウンド*でOrigin Ventures、Leo Capital、Amicus Capitalより200万ドル調達
 - 調理済み食品の宅配サービスFood Panda(独)、
2016年12月時点で創業以来合計3億1,800万ドルの資金調達
 - 調理済み食品の宅配サービスJUST EAT(英)、
2014年4月にロンドン市場へのIPOで24億5,000万ドルを調達

⋮

注: * ベンチャーキャピタルがベンチャー企業に対して投資をする段階。
主にシリコンバレーで使われる言葉で、ベンチャー企業のステージに応じて、シードラウンド、シリーズA、シリーズB、...という形で進む

出所: 各社WEBサイトより作成

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

